



增補
明書

割家圖彙

卷八

十九ヨリ
廿一
終ニ至

13
1782
8





頭書增補訓蒙圖彙卷之十九

樹竹

は部よん人本竹の
とんと能を



○杉 ハシ
毒瘡とわん水
ひんて 郷気
海とゆを



○松 マツ
はハ久しく樹を
まハカとろくし
て老て年とろ



桐 キナンド

○桐 ハシ
あつ葉三ま
わりららねを
ひん子とひそ
とそ白桐とよ



檜 ヒノキ

○檜 ハシ
てハハ葉ハ松
楳ふつハハ
はらハハハハ



○櫻 花の白く
くは花の白く
文とさといへば
文とさといへば
文とさといへば
解とさといへば

櫻 とうり

○櫻 皮あるく
系核より花
櫻のより花
はさるとて汗

櫻 とうり

○櫻 一名の朱
挑一名の麦
はさるとて汗
はさるとて汗
はさるとて汗

櫻 とうり



櫻 とうり



櫻 とうり



○櫻 一名の朱
挑一名の麦
はさるとて汗
はさるとて汗
はさるとて汗

櫻 とうり

○櫻 花の白く
くは花の白く
文とさといへば
文とさといへば
文とさといへば

櫻 とうり

○櫻 花の白く
くは花の白く
文とさといへば
文とさといへば
文とさといへば

櫻 とうり



櫻 とうり



櫻 とうり



○櫻 花の白く
くは花の白く
文とさといへば
文とさといへば
文とさといへば

櫻 とうり

○櫻 皮あるく
系核より花
櫻のより花
はさるとて汗

櫻 とうり

○櫻 一名の朱
挑一名の麦
はさるとて汗
はさるとて汗
はさるとて汗

櫻 とうり



櫻 とうり



櫻 とうり



○櫻 花の白く
くは花の白く
文とさといへば
文とさといへば
文とさといへば

櫻 とうり

○櫻 皮あるく
系核より花
櫻のより花
はさるとて汗

櫻 とうり

○櫻 一名の朱
挑一名の麦
はさるとて汗
はさるとて汗
はさるとて汗

櫻 とうり



櫻 とうり



櫻 とうり



楮コ

楮の皮の紙
はつらふし
うそくふん
楮のしほ子



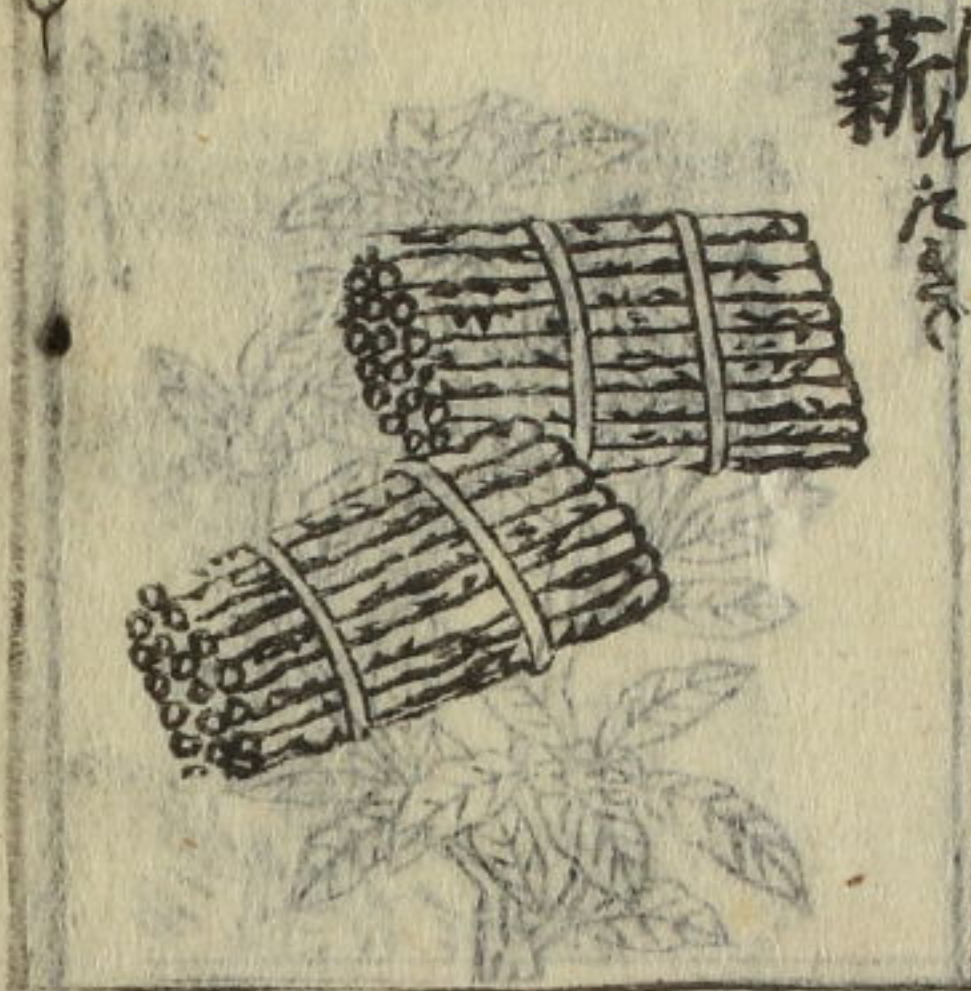
柴シ

柴の小木
柴の材



薪シ

薪はたき
粗と薪との細
つらふ



楮コ

○製ハ一々の皮
きと依一中と
との皮と
疾と依一帯と
ゆり合と下



楮コ

○楮ハ季の
終り常い五月
子たき



楮コ

棘キ

○棘ハ
木くく
ひらり生



棘キ

藁カ

○藁ハ竹の
ありたひ



藁カ

藁カ

○藁ハ竹の
ありたひ



藁カ

篠シ

○篠ハ小竹の
ありたひ



篠シ

炭ツ

炭ハ
烏銀
炭ハ



炭ツ

柿カ

柿ハ
ハ



柿カ

藁カ

○藁ハ
又竹の皮と



藁カ

○葎 草同
 腸を利し瘵と
 溶し胃とささる
 に水道とすじ
 氣とまふ

筒すゐりのつ
 筒すゐりのつ
 筒同竹節と
 けり

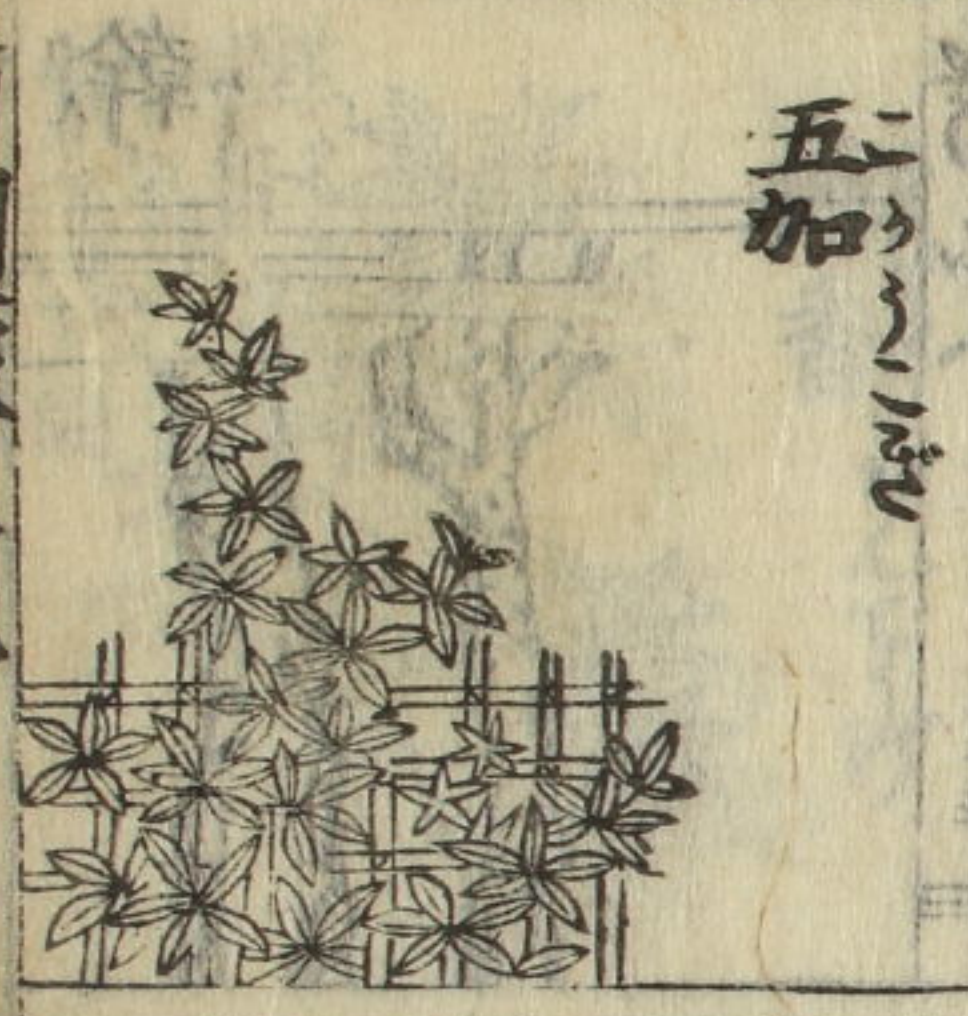
芙蓉ふよう
 ○芙蓉ハ水子生
 せりと水芙蓉と
 一ノ荷花あり木
 以生する木芙蓉
 長谷ノ木秋花



○躑躅しゆくじゆくハ夏花と
 のく羊ひつぎれと
 一ノ躑躅と
 毛けげり

○枸杞こきりハ皮膏
 骨節の痛と
 一ノ換毒とすりか
 さぬれとすんず

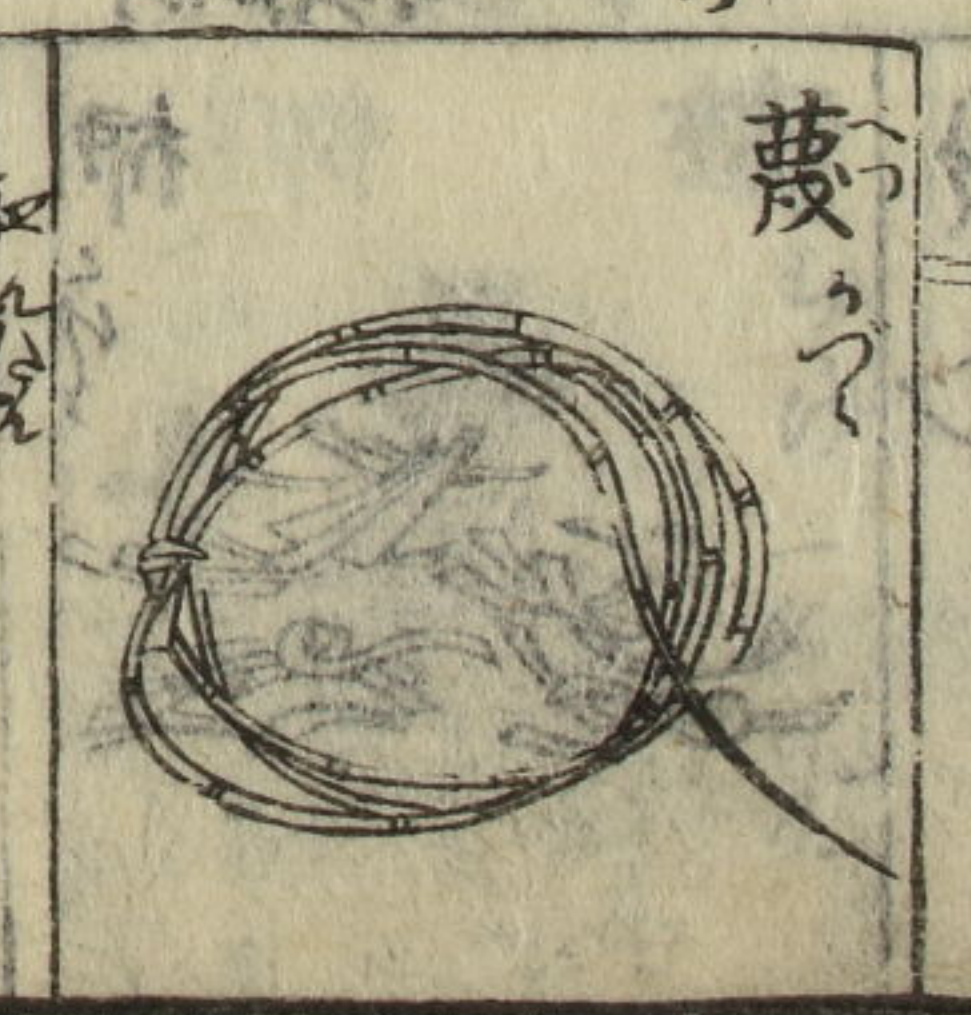
○五加ごかハ蕪子ぶしの
 ちりてくハ皮
 膏の風湿と
 一ノ五加 五加同



○竹たけハ六十一種
 あり六十年以上
 一ノ竹ハ竹節
 ありてくれ美と
 一ノ又生と

蔑せうハ竹のわさ
 一ノ蔑せうハ竹のわさ
 一ノ蔑せうハ竹のわさ

梅うめハ冬花ハ
 一ノ梅うめハ冬花ハ
 一ノ梅うめハ冬花ハ



○櫻うめハ六七月
 一ノ櫻うめハ六七月
 一ノ櫻うめハ六七月

○厚朴こうぼくハ春花と
 生て四季ハ花と
 一ノ厚朴こうぼくハ春花と

○辛夷しんいハ冬花
 一ノ辛夷しんいハ冬花
 一ノ辛夷しんいハ冬花



幹の木の心あり
くしんり

梢の木の心を
のり根司

株のくせあり
俗云くせあり
八と根のくせ
といはれり

幹



梢



株

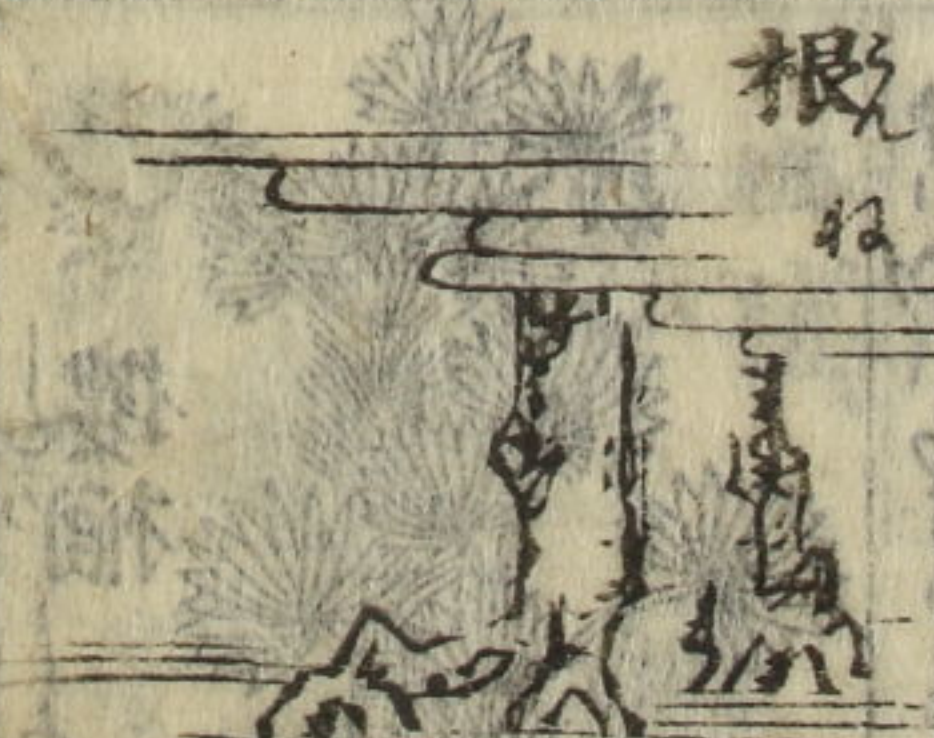


枝

枝の木の心を
柯同細枝と
條の木の心を
樹の木の心を

葉の木の心を
葉の木の心を
葉の木の心を

根の木の心を
根の木の心を
根の木の心を



粉圓の花白

紫陽の花白

瑞香の花白

紫丁香の花白

粉圓



紫陽



瑞香



芽

芽の木の心を
芽の木の心を
芽の木の心を

薬

薬の木の心を
薬の木の心を
薬の木の心を

山茶

山茶の木の心を
山茶の木の心を
山茶の木の心を

芽



薬



山茶



○梧桐の皮をく
くろく皮ふま
花の黄をく
くろく皮ふま
くろく皮ふま

紫荊

○紫荊 葉小に
しんじく
くろく皮ふま
くろく皮ふま

楊楤

○楊楤 葉小に
く木黄より黄
く木黄より黄
く木黄より黄

梧桐



紫荊



楊楤



○海棠 花白
花白
花白
花白
花白

木樨

○木樨 一名岩桂
花白
花白
花白
花白

紫葳

○紫葳 花紅白
花紅白
花紅白
花紅白

海棠



木樨



紫葳



石檀

○石檀 葉小に
く木黄より黄
く木黄より黄
く木黄より黄

野漆

○野漆 葉小に
く木黄より黄
く木黄より黄
く木黄より黄

仙栢

○仙栢 葉小に
く木黄より黄
く木黄より黄
く木黄より黄

石檀



野漆



仙栢



○角楸 葉小に
く木黄より黄
く木黄より黄
く木黄より黄

圓栢

○圓栢 葉小に
く木黄より黄
く木黄より黄
く木黄より黄

合歡

○合歡 葉小に
く木黄より黄
く木黄より黄
く木黄より黄



圓栢



合歡



○鳥夷トウイの根、槐カキの枝より、
之を交わす、其の
子に似て、鳥夷
子と名す

黄楊ワウヤウ 子

○黄楊ワウヤウの根、槐カキの枝より、
のこわす、其の
子に似て、鳥夷
子と名す

女貞メイチ 子

○女貞メイチの根、槐カキの枝より、
のこわす、其の
子に似て、鳥夷
子と名す

鳥夷トウイ



黄楊ワウヤウ 子



女貞メイチ 子



冬青トウセイ



衛矛エイモウ



狗骨コウボネ



○木蘭モクランの香、蘭ランの
根にて、花の莖の
下に、自ら、
ひらき、あり

接骨ケツボネ

○接骨ケツボネの根、
水腫スイシュと
名す、一名、木蘭モクランの
根と名す

木槵モクシュ

○木槵モクシュの根、
五六月、
生、ひらき、
老、れ、
に、老、れ、
に、老、れ、

木蘭モクラン



接骨ケツボネ



木槵モクシュ



石南シヨクナン



楸木キウボク



楸キウ



○冬青トウセイの根、
槐カキの枝より、
之を交わす、其の
子に似て、鳥夷
子と名す

黄楊ワウヤウ 子

○女貞メイチの根、
槐カキの枝より、
のこわす、其の
子に似て、鳥夷
子と名す

女貞メイチ 子

○冬青トウセイの根、
槐カキの枝より、
のこわす、其の
子に似て、鳥夷
子と名す

冬青トウセイ



衛矛エイモウ



狗骨コウボネ



○木蘭モクランの香、
蘭ランの
根にて、花の莖の
下に、自ら、
ひらき、あり

接骨ケツボネ

○接骨ケツボネの根、
水腫スイシュと
名す、一名、木蘭モクランの
根と名す

木槵モクシュ

○木槵モクシュの根、
五六月、
生、ひらき、
老、れ、
に、老、れ、
に、老、れ、

木蘭モクラン



接骨ケツボネ



木槵モクシュ



石南シヨクナン



楸木キウボク



楸キウ



頭書增補訓蒙圖彙卷之廿

花草

花部にいろいろの草
花とあつす

蘭の葉のつら



○蘭の葉のつら
まじり葉をとり
水漬のかり
に生きたる葉は
てかうなり

建蘭の今の首



建蘭の今の首
蘭のつら
花のつら
脚蘭のつら

蕪の葉のつら



○蕪の葉のつら
に花のつら
らしたるつら
実のつら
うらしたるつら

蜀葵のつら



蜀葵のつら
蜀葵のつら
蜀葵のつら
蜀葵のつら

艾のつら



○艾のつら
血のつら
つら
つら
つら

錦葵のつら



錦葵のつら
錦葵のつら
荆葵同

藍のつら



○藍のつら
にのつら
つら

藍のつら



蕪のつら



○蕪のつら
つら
つら

蕪のつら



蕪のつら

○蕪のつら
つら
つら

○蕨の皮を煎じて
して薬する者あり
○蕨の皮を煎じて
して薬する者あり

蕨

○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり

蕨

○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり



○蕨の皮を煎じて
して薬する者あり
○蕨の皮を煎じて
して薬する者あり

蕨

○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり

蕨

○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり



○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり

蕨

○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり

蕨

○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり



○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり

蕨

○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり

蕨

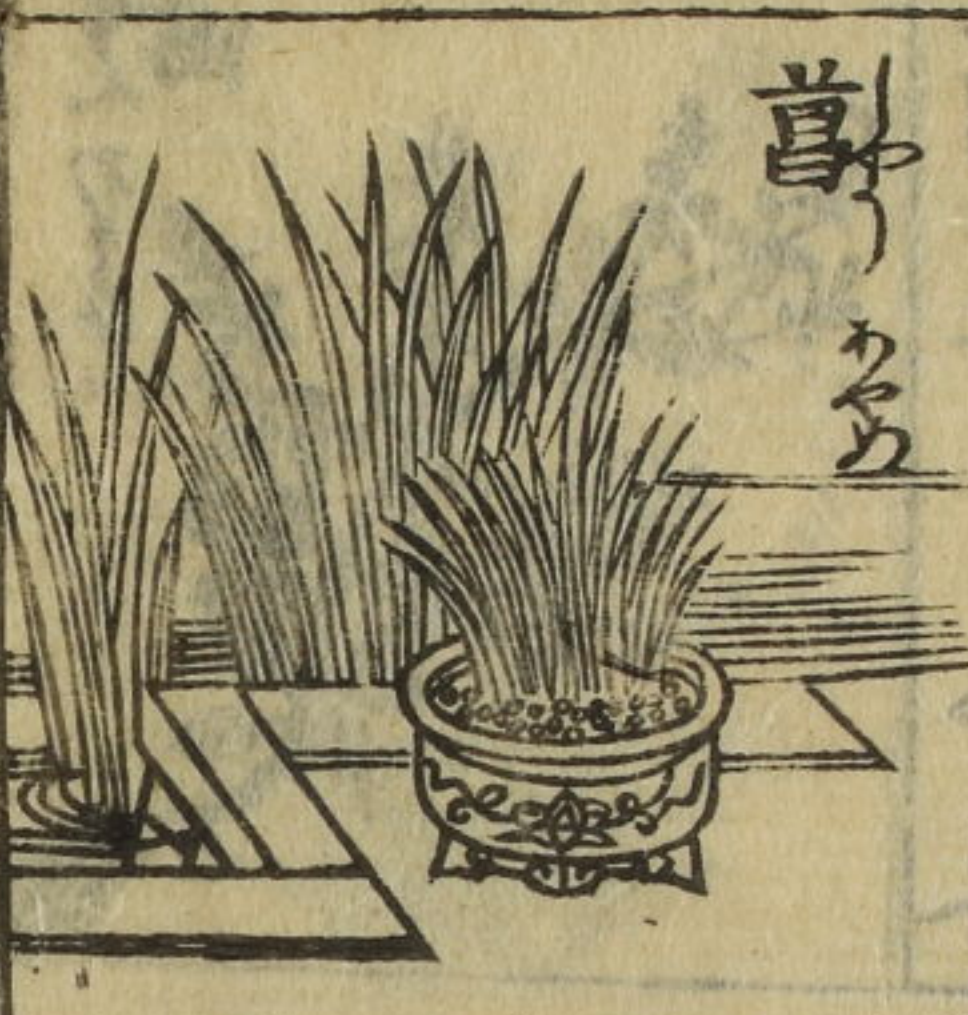
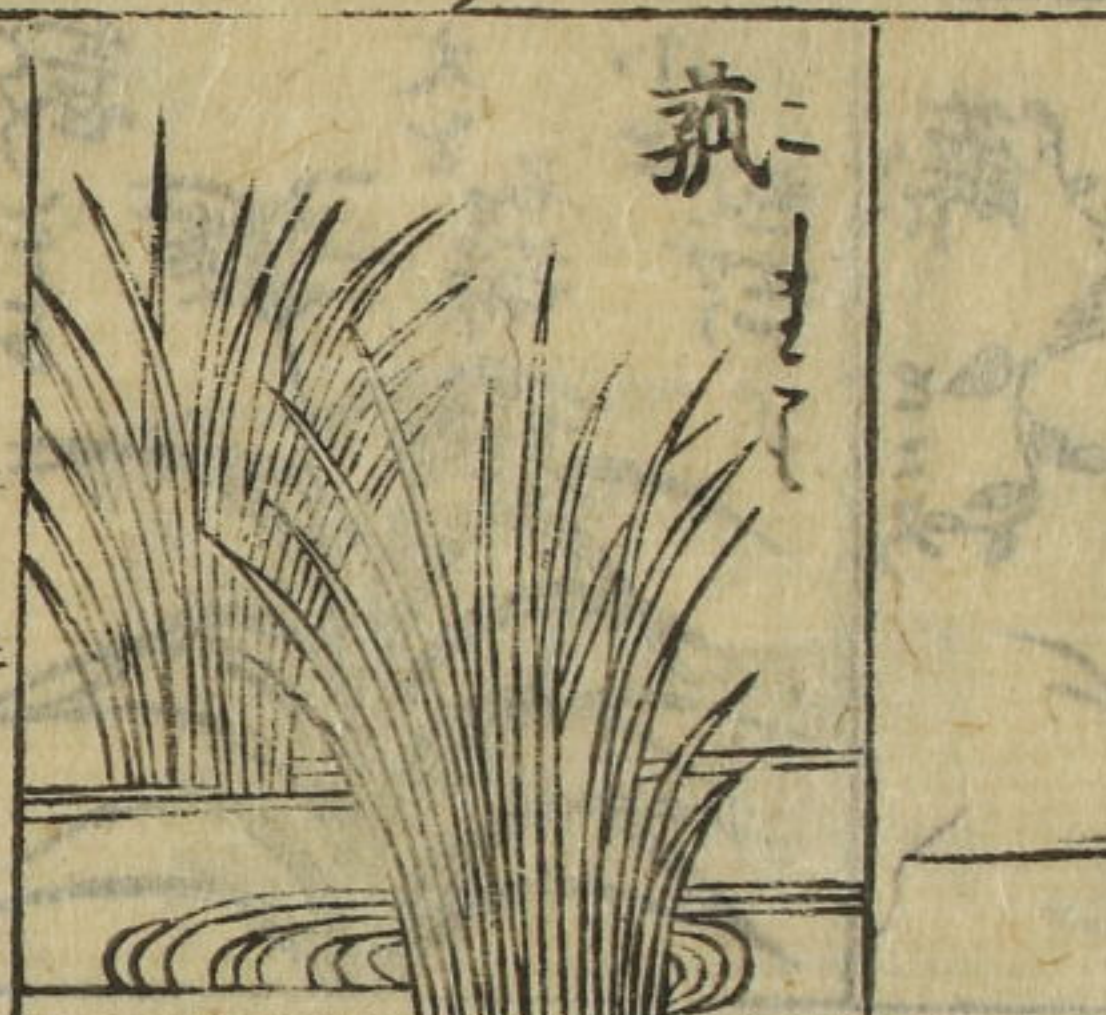
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり
○蕨の根を煎じて
して薬する者あり



蒲 ハハ
 ○蒲ハ水底に生
 ずいしハハハハハ
 べハ蒲穂ハハハ
 此ハハハハハハ
 蒲穂ハハハハハ

菰 ハハ
 ○菰ハ水底に生
 生ハハハハハハ
 一名ハハハハハ
 菰草ハハハハハ

薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ一寸九節
 多ハハハハハハ
 多ハハハハハハ
 六十七日ハハハ
 ハハハハハハ



藜 ハハ
 ○藜ハ水底に生
 血ハハハハハハ
 勝ハハハハハハ
 湯ハハハハハハ
 物ハハハハハハ

藎 ハハ
 ○藎ハ九月十月
 ハハハハハハハ
 名ハハハハハハ

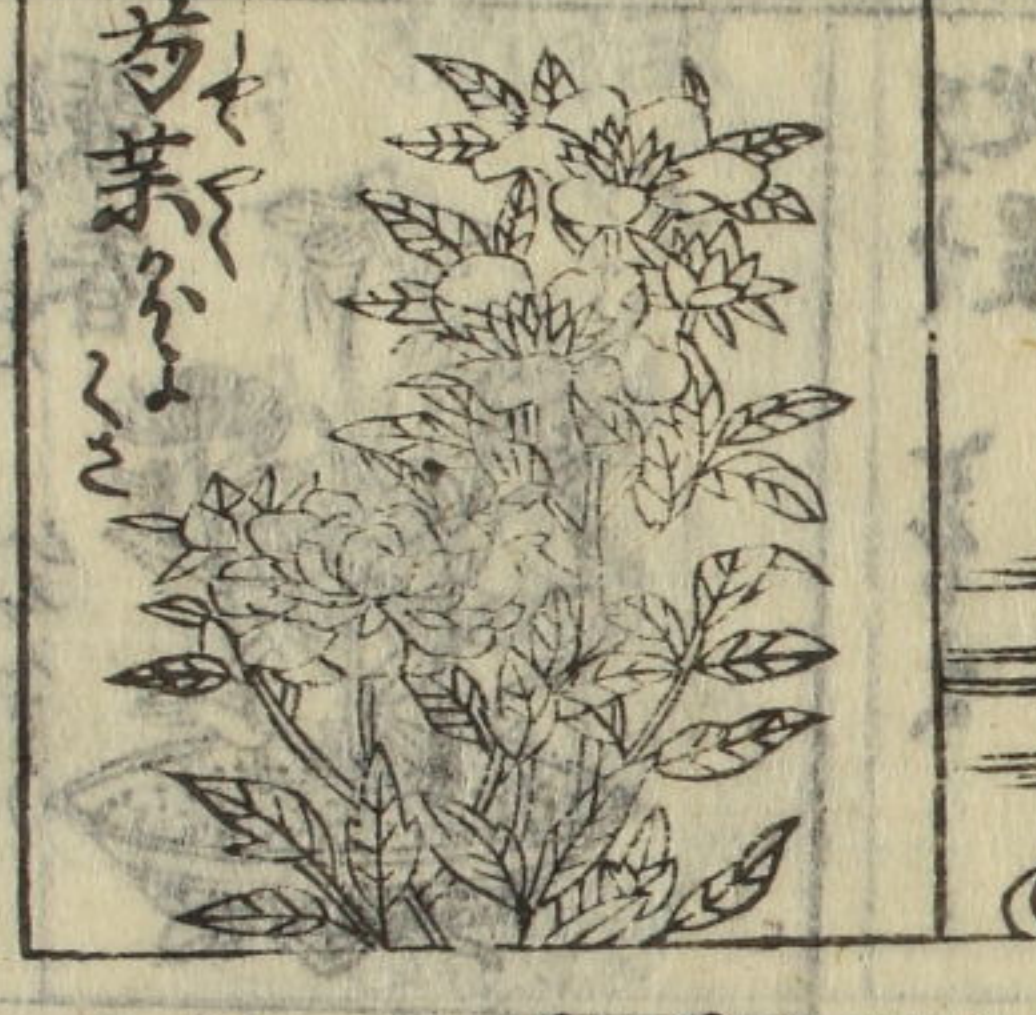
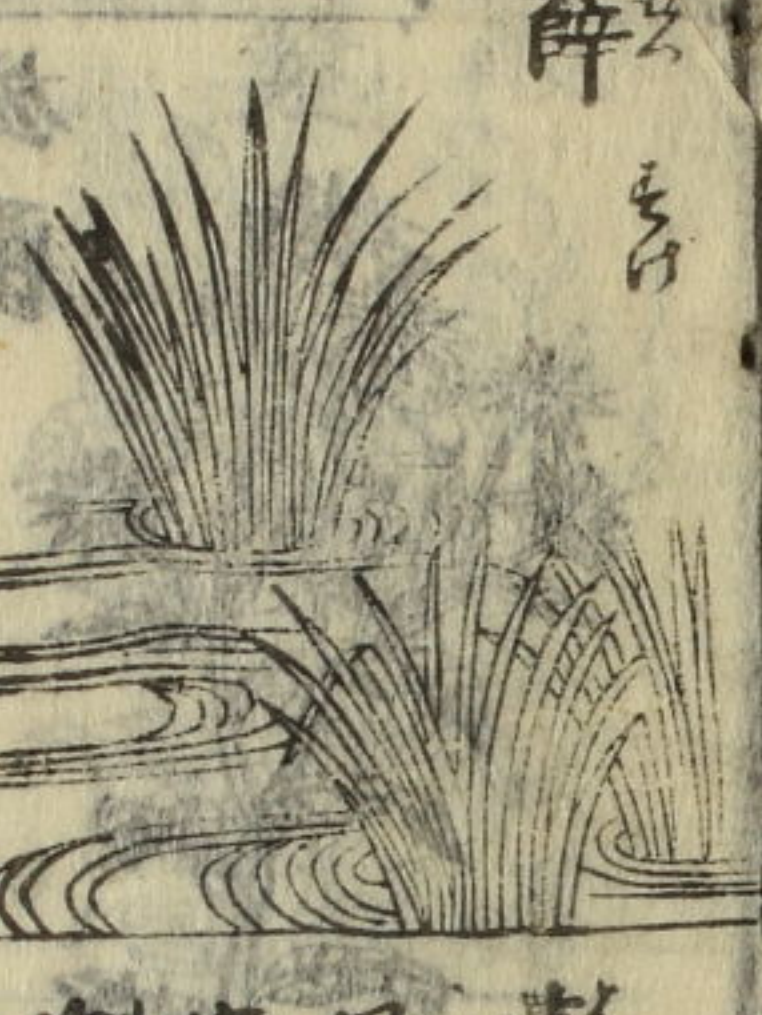
薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ水底に生
 ハハハハハハハ
 ハハハハハハハ
 ハハハハハハハ



薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ一寸九節
 多ハハハハハハ
 多ハハハハハハ
 六十七日ハハハ
 ハハハハハハ

薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ一寸九節
 多ハハハハハハ
 多ハハハハハハ
 六十七日ハハハ
 ハハハハハハ

薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ一寸九節
 多ハハハハハハ
 多ハハハハハハ
 六十七日ハハハ
 ハハハハハハ



藜 ハハ
 ○藜ハ水底に生
 血ハハハハハハ
 勝ハハハハハハ
 湯ハハハハハハ
 物ハハハハハハ

藎 ハハ
 ○藎ハ九月十月
 ハハハハハハハ
 名ハハハハハハ

薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ水底に生
 ハハハハハハハ
 ハハハハハハハ
 ハハハハハハハ

薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ一寸九節
 多ハハハハハハ
 多ハハハハハハ
 六十七日ハハハ
 ハハハハハハ

薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ一寸九節
 多ハハハハハハ
 多ハハハハハハ
 六十七日ハハハ
 ハハハハハハ

薏苡 ハハ
 ○薏苡ハ一寸九節
 多ハハハハハハ
 多ハハハハハハ
 六十七日ハハハ
 ハハハハハハ



蔓草

蔓草の葉と花

蔓草の根と葉

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花



蔓草

蔓草の葉と花

蔓草の根と葉

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花

蔓草の葉と花



鳳仙花
白の葉あり花の
葉白紅紫黒
金銀花同

五葉子
○五葉子の葉と花

五葉子
○五葉子の葉と花

五葉子
○五葉子の葉と花



鳳仙花
白の葉あり花の
葉白紅紫黒
金銀花同

五葉子
○五葉子の葉と花

五葉子
○五葉子の葉と花

五葉子
○五葉子の葉と花



鳩尾

○鳩尾の葉は羽
形に似たり花は
白く花の葉は
羅傘に似たり



文菊

○文菊は一名の
定陽花といふ花
菊の一種に色黄
又とては名蓮
陽花



石竹

○石竹は北唐
の系に似たり花大
きく赤く紅紫
にあり一名瞿麥



秋葵

○秋葵は一名と
黄蜀葵といふ花
大く赤くあり



朝羅

○朝羅は葉の
形に似たり花は
白くあり



様錦

○様錦は六月
の葉に似たり花
は白くあり



鳩尾

○鳩尾の葉は羽
形に似たり花は
白くあり



酢漿

○酢漿は一名
酸草といふ花
大くあり



董菜

○董菜は一名
龍頭草といふ
花は白くあり



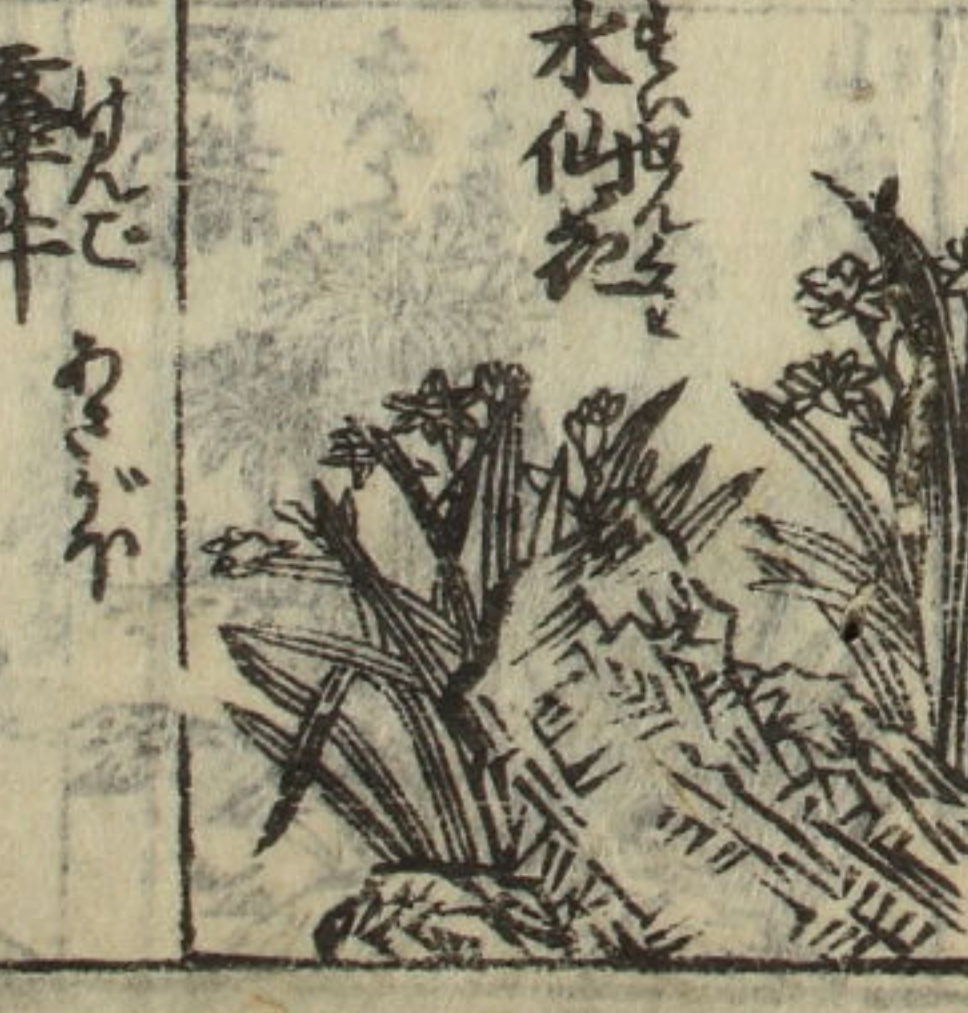
金盞花

○金盞花は花の
形に似たり花は
白くあり



水仙花

○水仙花は花の
形に似たり花は
白くあり



牽牛

○牽牛は葉の
形に似たり花は
白くあり



龍騰

○龍騰は花の
形に似たり花は
白くあり



酢漿

○酢漿は一名
酸草といふ花
大くあり



董菜

○董菜は一名
龍頭草といふ
花は白くあり



金盞花

○金盞花は花の
形に似たり花は
白くあり



水仙花

○水仙花は花の
形に似たり花は
白くあり



牽牛

○牽牛は葉の
形に似たり花は
白くあり



狗耳草

茵陳

○茵陳 葉の
青くありて
九月にやそ花
ひく 藍色



春菊

○春菊 花の
白くありて
高菜花より



玉簪

○玉簪 葉大
くありて
六月に花
ひく



金燈

○金燈 花の
赤くありて
鬼燈 葉又蔓



石蒜

○石蒜 花の色
赤くありて
枝節



鼓子

○鼓子 花の
赤くありて
又花蕾



鼠鞠

○鼠鞠 花の
赤くありて
耳毛



萍蓬

○萍蓬 水
に生じ 葉
水栗



龍葵

○龍葵 花の
赤くありて
小大



車前

○車前 花の
赤くありて
葉



山葱

○山葱 花の
赤くありて
葉



防風

○防風 花の
赤くありて
葉



珊瑚菜

○珊瑚菜 花の
赤くありて
葉



龍葵

○龍葵 花の
赤くありて
葉



防風

○防風 花の
赤くありて
葉



首訓家士

○積雪の種まき
大竹の種まき
とく草の種まき
てはつあり後の
あつらん生む

天茄

○天茄一名
紫の葉茄子
はてふ五月の末
小白死といふ

慎火

○慎火一名
天の火といふ
戒火といふ
身と佛申草



連鐵草 用薄荷並同



天茄



慎火

○南星の月夜と
はしりよとまかり
こころのうらに
ふく 又虎掌懸
藹藹と多く



南星

○牛膝の根は
まぶさく腰脚
いひと山
煎菜對節菜と
あつ



牛膝

○羊蹄一名
香菜といふ
と金養菜といふ



羊蹄

○麦の冬ハ四月
うとあつ死に
く振ふひげあり
実のえらり片て
珠のえらり

茴香

○茴香ハ赤気と
のぞ死無
いんをちり男と
あつし和名これ
のとき

杜薔

○杜薔ハ葉の
跡にみりり
たの死生
蹄香ハ靴杜薔



麦の冬



茴香



杜薔

○水蓼ハ草鳥
頭の苗あり
いしとす
いしとす
あり



水蓼

○紫草ハ九割と
つり水と利
これと消せ
さうり一名
花葉



紫草

○虎杖ハ月水
通利ハ瘰癧と
やう湯とあり
つんと利
らり



虎杖

番薯
○甘藷の根を
とろし煎じ
て入る

薺
○薺の葉を
つみたくて
白く汁を
取り出し
付せしむる
毒

蒼耳
○蒼耳の葉を
つみたくて
白く汁を
取り出し
付せしむる
毒

木賊
○木賊の根を
とろし煎じ
て入る



木賊
○木賊の根を
とろし煎じ
て入る

紅花
○紅花の根を
とろし煎じ
て入る

苧麻
○苧麻の葉を
つみたくて
白く汁を
取り出し
付せしむる
毒



地林
○地林の根を
とろし煎じ
て入る

蒼木
○蒼木の根を
とろし煎じ
て入る

苦参
○苦参の根を
とろし煎じ
て入る

玉栢
○玉栢の根を
とろし煎じ
て入る

甘藷
○甘藷の根を
とろし煎じ
て入る

澤漆
○澤漆の根を
とろし煎じ
て入る



○蒲葦の枝は
五葉の白く赤
く緑豆のじ
つしおす葉と
つげやうりふ



防己

○防己の根は
湿脚
のつこと
いとしと
いと治し
解離
さる



烏頭

○烏頭は
鳥の頭
の頭
のつこと
いとしと
いと治し
解離
さる



石荷
○石荷は
虎耳草
水湿の
虎耳草
卷栢



○卷栢一名と
地栢
生と
用
石葦



○石葦は
生と
石葦



○山薑
美
子
ひて根
あさり
一名義草



○龍葵
天
より毒
云



○鏡面草
石



○馬勃
石



○石帆
石



○石帆
石



楊草 〇楊草ハ氣ハ
蕪青ハ...

華蔓 〇華蔓ハ花
あきけ...

萩 萩ハ郊野に
生セ秋花...



石斛 〇石斛ハ石上に
生シ背れ氣...

秋海棠 〇秋海棠ハ氣
秋花...

秋海棠 〇秋海棠ハ氣
秋花...



頭書增補訓蒙圖彙卷之元一

雜類

諸祖師 散聖の托とある...

二王金剛

〇右と右弼金剛
善と人の生...

〇左と左輔金剛
剛と人の断悪...

佛法守護作
置と

右弼金剛



左輔金剛



持國天王

〇乾達婆毗舍
聞と右さり足下...

〇鳩槃荼菩薩
多と足下...

四天王の守二
守護...

持國



增長



廣目天王

○龍及び富單
那と足下は
法界と
安立し西方を
護したる人



辨才天女

○衆生に智慧
福とあり今人琵琶
と弾いたる人
楯とてみれば
音天女のり人



大黒天

○八方四千の眷
属あり貧困と
轉せし福者といふ
摩伽羅神も
りあり



毘沙門天王

○夜叉羅刹と足
下にはとてさ
北方と守護し
たる大慈悲多聞
天王といふ



布袋

○支那の散聖に
て彌勒菩薩
の化身なり常に
布袋と肩に懸
布の袋と肩に懸
ぶるに及ぶ布袋
僧といふ



蛭子

○伊弉諾尊の牙
三の神子月神の
に於て西宮蛭子
三郎とてりあり
市の賣買とち
りあり神事あり



福祿壽

○福神なり天
南星といふ星の
化現なり頭を
杖とて持
て経と結をて持
て麻とて敷
す



福祿

天人

○首の花曼荼
ひとて常
ねよびて常
月たるとて
やまふも令
ふしとて樂
五衰の悲あり



狸

○狸は能言と
あり形後に似
て人の面のご
声小兒のご
やと酒と好
し



壽老人

○福神なり老人
星といふ星の化現
白髪に杖と
とてりあり杖と
りあり杖と



迦陵頻

○天上の鳥なり
天人の面のご
声とてて
なれとて妙声鳥又ハ
好音鳥とも
経の泥なり



天狗

○増上慢心の者
魔界に入人
狐惑とて異説多
天狐も書し



誕生釈迦

○卯月八日寅の
時誕生したまふ
七枚ののこは
と下りて天上
下嚙我母舌の
たまふ

誕生佛



山越如来

○殿山横川の三
杯は弥陀の面容
と現はるる
恵心僧都拜
ふりて馬一多入
ふりて



初祖達磨

○梁の武帝は
まゝえ江とけり
魏の竹林寺に
入らば世に草
葉達ハ又ハ一
華達ハもいふ



出山釈迦

○佛三十歳の五府
十一月八日明星の
出るに廓然大
悟とあり正覺と
成れたまふ

出山佛



維摩居士

○善惠大士又ハ東
陽大士ともいふ二童
子ハ其子ケケル
指さるるハ普成
り梁の人ケリ



傳大士

○善惠大士又ハ東
陽大士ともいふ二童
子ハ其子ケケル
指さるるハ普成
り梁の人ケリ



聖徳太子

○太子十六歳の
に於てあり天冠
二代形即天皇の
御年四十九歳二
月十五日入滅
日本佛法の初
傳教大師

太子



傳教

○天冠の用祖
延暦元年入唐
五十六歳六月四
日入滅傳教大
師ハ此よりあり



龍猛

○南天竺に出生
釈迦の八百年
後真言宗乃
初祖大日経
金剛頂経蘇悉
地経と弘法大



天台大師

○陳隋二代の國
師唐土天台宗の
開祖十月廿四
日卒歳六十八
智者大師をい
ふ

天台



元三

○講ハ良源康保
三年天台座を
とり又大僧正
花山院寛和三年
三月寂と慈惠大
師ハ此よりあり



弘法

○講ハ空海延暦
廿三年入唐ケリ
日本真言宗の開
祖六十二歳三月
廿日入滅弘法大
師ハ此よりあり



六祖大師

○唐主の運六祖大師の遺骸を唐に送らせし事
○唐主の運六祖大師の遺骸を唐に送らせし事
○唐主の運六祖大師の遺骸を唐に送らせし事



六祖

洞山大師

○雲岩の印可
○雲岩の印可
○雲岩の印可



洞山大師

道元禪師

○日本曹洞宗
○日本曹洞宗
○日本曹洞宗



道元

臨濟大師

○黃蘗の印可
○黃蘗の印可
○黃蘗の印可



臨濟

榮西禪師

○日本臨濟宗
○日本臨濟宗
○日本臨濟宗



榮西

鑑真和尚

○唐王廣陵の人
○唐王廣陵の人
○唐王廣陵の人



鑑真

行基菩薩

○泉州の人百濟
○泉州の人百濟
○泉州の人百濟



行基

善導大師

○唐主長安の瀧
○唐主長安の瀧
○唐主長安の瀧



善導

法然上人

○諱源空作州
○諱源空作州
○諱源空作州



源空

役行者

○後小角元々和
○後小角元々和
○後小角元々和



行者

親鸞上人

○諱善信と云
○諱善信と云
○諱善信と云



親鸞

日蓮上人

○房州の人法華
○房州の人法華
○房州の人法華



日蓮

孔子

○のち周の代の
の堯舜の及
といわれ五常
をたす文宣王
云儒宗の大聖人
なり

寒山子

○唐の太宗の
天台山に隠れ
拾得と法な
るは去すと
うと文珠の他
別なりと

拾得子

○豊干禪師の
拾得
常に寒山とゆ
りて終つて
考員の庵に居り

孔子



寒山



拾得



老子

○周の代の人牛
と伝自修なり道
紐五千言とあり
無為自然の
とたす道の
大徳なり

大公望

○尚父とあり滑
濮に居り
周の文王の賢
る師とあり
曰此王に無とあり

許由

○堯の君位とゆ
つんく乃た
賢くその耳汚れ
たりと穎川の滝
に沈り耳とわ
り賢人なり

老子



大公



許由



費長房

○後漢の代の人
仙術とえて
棄て飛行せり
又下令威もい
へり

上利劍

○仙人の劍と
来りて彼乃
上と修行せり
術はなかり

幼平

○のりて金華
山に住仙人
白石に向て叱
りて白石數千
百の斬となり
乃てくわり

費長



上利



幼平



琴高

○神仙の術と
て鯉に乗る水
上と飛行し書
とらる仙人
なり

蝦蟇仙人

○は仙人の虚空
にひるく己が
形とありとを
仙術とわたり
なり

鐵拐仙人

○は仙人の虚空
にひるく己が
形とありとを
仙術とわたり
なり

琴高



蝦蟇



鐵拐



如今訓蒙圖彙者以假名字加頭書
艾繁補闕便於童蒙且亦雜類一
篇新添者也

千時元祿八^{乙亥}孟春穀旦

書肆 開版



書肆
開版

全部八冊

世田氏持所

